

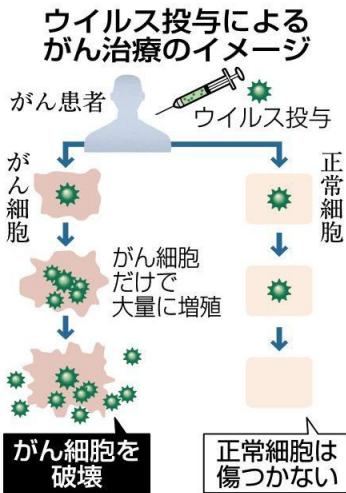
# 7人中5人ががん縮小

## 体へ負担も少なく

医師主導治験検討

新しい治療法は体への負担が少なく、高齢、持病などで外科手術や抗がん剤投与が難しい患者に治療の機会が生まれるメリットがあるという。実用化に向け、医師が主体となる医師主導治験への移行を検討するほか、米国で近く開かれるがんの学会で発表する。

新しい治療法は体への負担が少なく、高齢、持病などで外科手術や抗がん剤投与が難しい患者に治療の機会が生まれるメリットがあるという。実用化に向け、医師が主体となる医師主導治験への移行を検討するほか、米国で近く開かれるがんの学会で発表する。



グループによると、2013年11月〜今年3月、食道がんを患う53〜92歳の男女7人にロメライシンを追加治療を実施した。その結果、5人のがんが小さくなったこと

を確かめた。うち組織検査の結果が出た2人は、がんが消えていた。患者には発熱や食道炎、白血球減少といった副作用が一部で見られたが、程度は軽かった。

この日、岡山大病院（岡山市北区鹿田町）

た。7人ともリンパ球が減少したものの、放射線治療の中断などで回復したという。ただ、効果がなかった2人は死亡し、がんが縮小した5人のうち2人も呼吸器疾患などで亡くなった。テロメライシンは、風邪ウイルスの一種アデノウイルスの遺伝子を組み換えたウイルス製剤。がん細胞だけで大量に増殖し、がん細胞を破壊する一方、正常な細胞は傷つけない。放射線治療の効果を高める働きもあるとされる。02年に岡山大が開発し、同大発ベンチャーが米国で行った臨床試験で、一定の効果が安全性が確認されている。

「高齡社会を迎え、体に優しい治療が求められている。できるだけ早く患者さんに届けられる方法を考えたい」と話した。（伊丹友香）

岡山大大学院医歯薬学総合研究科（消化器外科学）の藤原俊義教授、白川靖博准教授らのグループは10日、がん細胞だけを破壊する独自開発のウイルス製剤「テロメ



会見する藤原俊義教授（右端）、白川准教授（右から2人目）ら。岡山大病院